



JTSU-B
申10号

申10号「2023年度夏季手当に関する申し入れ」

第4回交渉経て妥結！その⑤

- (組合) でも当時の過去最高の黒字であっても、賞与に対しては青天井の判断はなかった。何かしらの懸念材料を会社は持ち出していた。そして当時の議論では支給率の乱高下したくはないと言っていた。
- (会社) 確かに言っていた。でも、そうも言っている状況ではなくなってしまった。
- (組合) そして家族への感謝についても回答書の中へ載せて欲しい。社内でも検討材料にして欲しい。
- (会社) 家族を蔑ろにした意図はない。会社として家族への感謝をしているのは当然である。しかし今後の回答書に入れる入れないは会社判断。ここで入れる入れないの議論をするつもりはない。コロナ禍でも家族への感謝していることには変わりない。
- (組合) 出ている声を聞くと、支給額の数字以上に1.0台と2.0台の差は大きい。僅かなものかもしれないが特を感じる気持ちは大きい。そこも含めて今後は考えて欲しい。
- (組合) 数字が2.0台となれば、それだけで社員のモチベーション格段に上がる。接客を生業としている以上、そういった雰囲気作りも大事であると思う。しっかり考えていただきたい。あと0.2ヶ月分3800万円出しても、社員のモチベーション次第でその分を取り返すのは出来るはずだ。
- (会社) 5月は薄氷の黒字を達成できた。しかしそこで0.2か月積み上げていたら赤字転換していたし、更に経営を圧迫していただろう。
- (組合) 我々もギリギリの黒字となっていると現場長から伺っている。
- (会社) いい赤字というものはない。我々も悔しい想いであるし、貴側の交渉員も非常に辛い想いであることも分かっている。しかしこの状況では言いたくないとも言わなければいけない。
- (会社) 去年の4月、5月とは違うことが明白にはなってきたが、黒字とはいえまだまだ薄氷と言えるし、これからの季節は台風のような自然災害に伴う運休でショートすることも十分に有りうる。
- (組合) 自然災害はコントロール出来なくても、社員の気持ちやモチベーションはある程度コントロールできる。
- (会社) 薄氷でも黒字になったというのは社員の成果であるのは間違いない。まだ燦る月々の波動を安定的な波に持っていき、この先が本当の勝負。だからこの5月の単月黒字の達成というのは大きい。昨年まで春輸送では黒字にはならなかった。赤字の話をするが、原資ゼロというのが何を行うにしても辛かった。
- (組合) 会社が辛かったのも理解している。しかしこの3年間で社員も借金生活に陥っている。
- (会社) それも理解している。直近の状況では薄氷ではあるが黒字達成できた。では黒字達成ではなく、収益を賞与にあてがい、輸送力を社員のモチベーション向上でどれだけ上げることが出来て、その持ち出し分を収益でどれだけ相殺できるかは不透明なところである。ただ単純にそういった黒字化の為に賞与を出し渋ったことではない。